

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	テヘラン州南部における、将来的に帰還を目指すアフガニスタン難民及びイラン人貧困層の職業能力向上
(2) 事業内容	(イ) 職業訓練プログラム ①基礎コース 第1期に引き続き、帰還後の就業や教育の継続に役立てるために有用な就職基礎能力の向上を図ることを目的として、英語、PCの研修コースを開講した。PCコースについては、アフガニスタンで雇用ニーズの高いウェブデザインコースをICDLコースの一環として開講し、それに加えてネットワークコースを開講した。英語コースについては、アフガニスタンの雇用ニーズの調査結果を踏まえ、また第1期の英語コースの参加者から聞き取り調査を行った結果、第1期に引き続きビジネス英語コースおよび英語教師養成コースを開講した。コースの開講に際しては、イラン・アフガニスタン両国の企業や協力団体からの情報収集に基づき、現地での国際企業や組織等への就職において、最も必要とされている技術の習得が可能となるコースを選定した他、カリキュラムについて講師と入念に協議し、実用的な知識や技術の効率的な習得に主眼を置いた運営を図った。 ②上級コース 帰還後の就業や教育の継続に際して有用な実践的技能を体系的かつ効率的に習得することを目的として、第1期に引き続き出版コースを開講すると共に、第2期よりビジネスコースも開講した。アフガニスタンでの雇用ニーズに基づき、出版コースでは、第1期から開講しているライティングコースおよびグラフィックデザインコースに加え、映像広告コースも開講した。ビジネスコースでは起業入門コースおよび会計コースを開講した。 医療コースでは、第1期に引き続き准看護師養成コースを開講し、前期から継続してコースを受講している20名が実践コースに参加した。実践コースでは、コース参加者がレイ市周辺の医療施設で実習訓練を受けた。助産師養成コースについては2014年10月の開講へ向け、イラン保健省とコースの運営、予算について協議を行った。 教育コース（小学校教員養成コース）については、イラン教育省やアフガニスタン難民向け学校の設立・運営者などと協議を行い、コースの運営について情報を収集すると共に助言を受け、2014年9月に開講予定である。開講に際しては基礎コースと同様に、専門技術をもつ医療者の不足解消等、現地での就職において最も必要とされている技術の習得が可能となるプログラムを選定する他、医療コースと教育コースは共に実績のある機関と提携することにより、OJTを含めた就職に直結するプログラムの提供を行う予定である。 (ロ) 実務研修プログラム 十分な意欲・能力があり、かつアフガニスタンへの帰還の意志を有するセンターの利用者をインターン生として登用し、実務的な就業機会を提供することで、帰還後に現地社会で活躍できる優秀な人材の育成を目指した。OJT研修を通じて、利用者対応及びコース・セミナー

運営等の実務を学び、オフィスワークに必要な知識・スキルの習得と実務能力の向上に取り組む機会を提供した。また、インターン生向けの IT コースおよび英語コースを開講し、ビジネスレベルの IT および英語スキルが確実に習得できるよう支援した。さらに、インターン生によるプロシユアやウェブサイト作成等、広報活動にも取り組んだ。

(ハ) 情報支援プログラム

①アフガニスタン国内の関係団体・企業、帰還した元難民との協力強化・情報収集

第 1 期に引き続き、アフガニスタン国内の団体との関係や情報収集の基盤強化を目指し、イラン内務省外国人移民管理局 (BAFIA) やイラン外務省 (MOFA)、在イラン・アフガニスタン大使館、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) など行政・国際機関との協議、交流を通じて協力体制の強化に努めた。また、国際 NGO である HELP (ヘラート事務所) や Afghanaid (カブール事務所)、Danish Refugee Counsel (テヘラン事務所) 職員などとも協議を行い、アフガニスタン、イラン両国からの包括的な帰還支援が実現するよう連帯関係強化に取り組んだ。さらに、アフガニスタン難民支援に関する NGO 国際会議や世界難民の日のイベントに参加し、アフガニスタン国内及びテヘラン市内の関係団体等とのネットワーク構築に取り組んだ。

2014 年 5 月からは業務執行代理人をアフガニスタンのカブールに配置し、現地の関係団体・企業、帰還した元難民との密接な関係構築に努めた。また、情報支援プログラムの充実化を目指し、カブール業務執行代理人を通じて、アフガニスタンにおける治安状況や雇用状況、物価や家賃などの生活費用、大学等の教育制度に関する情報の収集に取り組んだ。帰還を希望するアフガニスタン難民に対しては、帰還前にイラン人スタッフによる個別カウンセリングを実施したほか、カブール業務執行代理人とのインターネット電話による個別相談を実施し、帰還後の就職活動と定住が実現するようイラン、アフガニスタン両国から情報支援に取り組んだ。

②セミナー開催を通じての啓発・教育活動

目的意識をもって各研修プログラムへ参加し、各研修プログラムを通じて得たスキルを実社会で活かすことができるよう、「将来の目標と計画」、「起業入門」などをテーマとしたセミナーを開催した。セミナーには、のべ 79 名が参加した。セミナー「将来の目標と計画」では、カウンセラーを講師として招き、グループワークなどを盛り込んだワークショップ式のセミナーを開催した。将来に対して不安を抱くアフガニスタン難民の若者が将来の目標を明確にし、目標へ向かって具体的な計画を立てていくことができるよう指導した。セミナー「起業入門」でも講師を招き、自営業を営んでいるセンター利用者やコースを受講している生徒を対象に、如何にして就業スキルを活かし収入の創出へ結びつけることができるかについて講義を行った。

③プロシユアによる情報配信

実務研修プログラムで登用したインターン生を中心に、職業訓練プログラムの出版コースにおいてプロシユアの発行に向けた訓練及び作成を進めている。プロシユアごとに、「アフガニスタンで就職する

	ためには」、「高卒者のアフガニスタンでの就職について」、「高卒以上学位取得者のアフガニスタンでの就職について」などをテーマに情報を収集し記述している。また、アフガニスタンの最新かつ正確な情報を反映できるよう、カブール業務執行代理人の協力を得ながら情報の収集に取り組んでいる。2014 年 9 月に印刷、配布を予定している。 ④カウンセリングサービスによる個別相談 NICCO の目的やヴィジョンを明確に伝え、1 人 1 人の受講者が NICCO について理解した上で、それぞれの適正、目標に合ったコースを的確に選択できるよう、職業訓練校のコース受講希望者に対してカウンセリングを実施した。グループカウンセリングには、633 名が参加した。																																																											
(3) 達成された効果	申請書に基づいた事業の成果に関し、以下の表に示す。 <table><tr><td colspan="4">(イ) 職業訓練プログラム</td></tr><tr><td colspan="4">成果：裨益者が①基礎コース(PC 基礎・英語)及び、②上級コース(医療・教育・出版・ビジネス)を受講し、帰還後の就業に有用な技能を習得する</td></tr><tr><td>指標：職業訓練コース受講者数</td><td>前半目標 198 名 年間目標 395 名</td><td>実績 199 名</td><td>前半目 標達成 度 101%</td></tr><tr><td colspan="4">(ロ) 実務研修プログラム</td></tr><tr><td colspan="4">成果：センターでのインターン研修を通じて、オフィスワークに必要なスキルの習得と実務能力の向上機会を得る</td></tr><tr><td>指標：インターンシップ参加者数</td><td>前半目標 5 名 年間目標 10 名</td><td>実績 12 名</td><td>前半目 標達成 度 240%</td></tr><tr><td colspan="4">(ハ) 情報支援プログラム</td></tr><tr><td colspan="4">成果①：裨益者がアフガニスタン国内の企業、関係団体、元難民等から、現地の雇用や教育に関する情報提供や帰還に関するアドバイスを受ける</td></tr><tr><td>指標：個別に帰還についてアドバイ スを受けた難民数</td><td>前半目標 30 名 年間目標 60 名</td><td>実績 4 名</td><td>前半目 標達成 度 14%</td></tr><tr><td colspan="4">成果②：裨益者がセミナーに参加することで、就職やアフガニスタンへの 帰還に関する有用な情報を得る</td></tr><tr><td>指標：セミナー参加者数</td><td>前半目標 180 名 年間目標 360 名</td><td>実績 79 名 (2 回開催)</td><td>前半目 標達成 度 44%</td></tr><tr><td colspan="4">成果③：プロシユアの配布を通じて、幅広い層のアフガニスタン難民らが、 アフガニスタンへの帰還や就職に関する有用な情報を得る</td></tr><tr><td>指標：プロシユア発行回数</td><td>前半目標 6 回 年間目標 12 回</td><td>実績 6 回(9 月に 発行予定)</td><td>前半目 標達成 度 100%(予 定)</td></tr><tr><td colspan="4">成果④：裨益者がカウンセリングサービスにより個々の状況やニーズに応</td></tr></table>				(イ) 職業訓練プログラム				成果：裨益者が①基礎コース(PC 基礎・英語)及び、②上級コース(医療・教育・出版・ビジネス)を受講し、帰還後の就業に有用な技能を習得する				指標：職業訓練コース受講者数	前半目標 198 名 年間目標 395 名	実績 199 名	前半目 標達成 度 101%	(ロ) 実務研修プログラム				成果：センターでのインターン研修を通じて、オフィスワークに必要なスキルの習得と実務能力の向上機会を得る				指標：インターンシップ参加者数	前半目標 5 名 年間目標 10 名	実績 12 名	前半目 標達成 度 240%	(ハ) 情報支援プログラム				成果①：裨益者がアフガニスタン国内の企業、関係団体、元難民等から、現地の雇用や教育に関する情報提供や帰還に関するアドバイスを受ける				指標：個別に帰還についてアドバイ スを受けた難民数	前半目標 30 名 年間目標 60 名	実績 4 名	前半目 標達成 度 14%	成果②：裨益者がセミナーに参加することで、就職やアフガニスタンへの 帰還に関する有用な情報を得る				指標：セミナー参加者数	前半目標 180 名 年間目標 360 名	実績 79 名 (2 回開催)	前半目 標達成 度 44%	成果③：プロシユアの配布を通じて、幅広い層のアフガニスタン難民らが、 アフガニスタンへの帰還や就職に関する有用な情報を得る				指標：プロシユア発行回数	前半目標 6 回 年間目標 12 回	実績 6 回(9 月に 発行予定)	前半目 標達成 度 100%(予 定)	成果④：裨益者がカウンセリングサービスにより個々の状況やニーズに応			
(イ) 職業訓練プログラム																																																												
成果：裨益者が①基礎コース(PC 基礎・英語)及び、②上級コース(医療・教育・出版・ビジネス)を受講し、帰還後の就業に有用な技能を習得する																																																												
指標：職業訓練コース受講者数	前半目標 198 名 年間目標 395 名	実績 199 名	前半目 標達成 度 101%																																																									
(ロ) 実務研修プログラム																																																												
成果：センターでのインターン研修を通じて、オフィスワークに必要なスキルの習得と実務能力の向上機会を得る																																																												
指標：インターンシップ参加者数	前半目標 5 名 年間目標 10 名	実績 12 名	前半目 標達成 度 240%																																																									
(ハ) 情報支援プログラム																																																												
成果①：裨益者がアフガニスタン国内の企業、関係団体、元難民等から、現地の雇用や教育に関する情報提供や帰還に関するアドバイスを受ける																																																												
指標：個別に帰還についてアドバイ スを受けた難民数	前半目標 30 名 年間目標 60 名	実績 4 名	前半目 標達成 度 14%																																																									
成果②：裨益者がセミナーに参加することで、就職やアフガニスタンへの 帰還に関する有用な情報を得る																																																												
指標：セミナー参加者数	前半目標 180 名 年間目標 360 名	実績 79 名 (2 回開催)	前半目 標達成 度 44%																																																									
成果③：プロシユアの配布を通じて、幅広い層のアフガニスタン難民らが、 アフガニスタンへの帰還や就職に関する有用な情報を得る																																																												
指標：プロシユア発行回数	前半目標 6 回 年間目標 12 回	実績 6 回(9 月に 発行予定)	前半目 標達成 度 100%(予 定)																																																									
成果④：裨益者がカウンセリングサービスにより個々の状況やニーズに応																																																												

じた研修プログラムの提案や、帰還・就職に関するアドバイスを受ける			
指標：カウンセリング利用者数	前半目標 180 名 年間目標 360 名	実績 633 名	前半目標達成度 352%

(イ) 職業訓練プログラム

基礎・上級コース合わせてのべ 199 名が職業訓練コースに参加し、就職に際して有用な知識や技術を習得した。8 月に各コースの試験結果を集計し、各コースの合格者、不合格者の集計、また各コースの評価の集計を実施する予定である。

(ロ) 実務研修プログラム

のべ 12 名が、職業訓練センターにてインターン生（4 名が有給インターン生、8 名が無給インターン生）として業務に従事し、実務能力の向上に取り組んだ。4 名の有給インターン生については、3 ヶ月間の実務研修を終え、5 月 30 日に研修プログラムを終了した。無給インターン 8 名中 1 名については、大学の勉学に専念するためインターンシップを 3 カ月間で卒業したが、7 名については、7 月末現在もインターン生として業務に従事している（2014 年 8 月実務研修修了予定）。

(ハ) 情報支援プログラム

①アフガニスタン国内の関係団体・企業、帰還した元難民との協力強化・情報収集

帰還を希望するのべ 4 名に対し、イラン人スタッフおよびカブール業務執行代理人による個別相談を実施し、アフガニスタンに関する情報提供や履歴書の添削などを行った。また、帰還に先立ち、カブール業務執行代理人が帰還希望者の履歴書を企業に紹介するなど、就職先斡旋にも取り組んだ。

②セミナー開催を通じての啓発・教育活動

のべ 31 名が、「将来の目標と計画」セミナーに参加し、31 名中 27 名がアンケートに回答した。そのうち 27 名の参加者が本セミナーが有用であったと回答した。また、のべ 48 名が「起業入門」セミナーに参加し、48 名がアンケートに回答した。そのうち 45 名の参加者が本セミナーが有用であったと回答した。

③プロシユアによる情報配信

実務研修プログラムで登用したインターン生がプロシユア（ポケットサイズ、40 ページ）の作成に向けて出版コースの研修に取り組んでいる。9 月に 6 冊を印刷、配布予定である。発行予定の 6 冊のプロシユアのテーマ（予定）は、以下の通りである。

- 1) アフガニスタンで就職するためには
- 2) 高卒者のアフガニスタンでの就職について
- 3) 高卒以上学位取得者のアフガニスタンでの就職について
- 4) アフガニスタンの教育制度
- 5) カブールへの帰還、定住について
- 6) アフガニスタン難民へ支援を行っているイラン国内の組織、団体

	について ブロシュアは、職業訓練校に登録している 1510 名のアフガニスタン難民に配布する予定の他、アフガニスタン難民向けの学校や UNHCR などの国連組織、国際・現地 NGO などを通じて、テヘラン州内のアフガニスタン難民へ広く配布する予定である。 <u>ブロシュアについては、第 1 期ではニュースレターとして出版していたが、第 2 期におけるイラン政府との交渉の結果、発行までのイラン政府内の承認プロセスに時間を要する新聞形式のフォーマットに代わり、アフガニスタンの教育制度、文化、生活などをテーマごとにまとめたブロシュアを作成し、情報の提供を行うこととした。</u> ④カウンセリングサービスによる個別相談 のべ 633 名が、センターの利用者登録にあたって職業訓練に関するカウンセリングを受けた。カウンセリングでは、職業訓練校の活動や活動目的を説明するほか、各コースに関しても、コースの受講要項やシラバスの内容、アフガニスタンでの雇用ニーズについて説明を実施し、センター利用者が各自の目的、関心にあったコースを適確に選択できるよう支援した。
(4) 今後の見通し	職業訓練プログラムについては、これまで通りコースの運営を続けるとともに、各コースの更なる質の向上にも努める。また、未開講の助産師養成コースに関しては 10 月から、小学校教員養成コースに関しては 9 月からの開講を目指し準備を進める。また、コースで習得したスキルをアフガニスタンでの就職活動で活かせるよう、履歴書の書き方や就職面談の受け方、オフィスマナーなどをテーマにセミナーも実施し、将来の帰還、就職活動の準備を支援していく予定である。 実務研修プログラムについては、9 月より新たに 10 名のインターン生を採用し、6 ヶ月間の研修を実施する。また、3 月に採用したインターン生の中からフェロー（有給インターン）として 2 名を 9 月から採用する予定である。フェローについては、職業訓練校のコースやセミナー、受付の業務に従事する一方、新インターン生の指導にもあたる。 情報支援プログラムについては、帰還した元難民を招聘し、8 月にセミナーを実施する予定である。本人の経験に基づき、帰還のための準備や帰還後の生活、帰還後の就職活動などに関する情報をセンター利用者に共有してもらう。また、ブロシュアは、6 冊を 9 月に印刷、配布する予定である。さらに、ヘラートのアフガニスタン人スタッフの採用も進め、ヘラートスタッフおよびカブールの業務執行代理人を通じてアフガニスタンに関する情報を収集し、情報支援プログラムの充実化に努める。また、帰還を希望するアフガニスタン難民の就職活動を支援するため、今後はアフガニスタンの現地企業との連帯も強化していく予定である。 一方、第 3 期での移管に備え、移管先団体の情報を収集し、職業訓練校の活動を自主的に運営できる組織力を有する団体の選定を進める。そのために、BAFIA の助言も参考にしつつ、アフガニスタン難民支援に携わっている現地 NGO の調査を実施する。